

令和6年度 地域連携推進会議 議事録

開催日時	令和6年11月23日（土） 午前10時30分～11時45分
開催場所	南部地域福祉センターA棟2階会議室
出席者	利用者1名、利用者家族1名、民生委員1名、行政1名、 グループホーム等支援ワーカー1名、 福祉関係者（近隣グループホーム）2名、 池田浩一（管理者）、近藤美貴（サービス管理責任者）
欠席者	なし
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1. ジョーの家概要説明 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業計画 ・ 年間予定 ・ 非常時の対応等 2. ジョーの家での生活について <ul style="list-style-type: none"> ・ 1日の流れ ・ 当事者から ・ 家族の立場から ・ 職員から 3. 意見交換
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ ジョーの家説明 ・ 令和6年度 事業計画 ・ 1日の流れ <p>※情報公開書類を閲覧できるように設置した</p>

出席者の自己紹介

1. ジョーの家概要説明

サビ管) 事業運営概要 別紙参照①

事業計画概要 別紙参照②

委員) クリスマス会はどんなことをされているか？

→ (回答) 普段の提供料理ではなく、世話人が普段とは異なる特別メニューを提供、室内の飾り付けをすることで、利用者の方々に季節のイベントを楽しんでもらっている。普段は積極的な交流は少ない利用者たちではあるが、このようなイベント等を通し、同じグループホームで生活する認識を得ているように感じる。

委員) 世話人への研修はどのような内容を行っているか？

→ (回答) 感染対策、防災対策、コンプライアンス研修等を定期的におこなっている。直近では、「意思決定支援」についての研修をした。そのほか、障害特性に関する(精神疾患、自閉症等)勉強会を行っている。入居者の特性を理解し、より適切な支援に繋がりたいと考えている。

委員) 入居者の意見等の聴取についてどうしているか。

→ (回答) 年に1回、第三者委員会の方が来所される。事前アンケートをもとに、入居者の声に耳を傾け、サービスの改善に繋げている。

委員) 帰省される入居者はいるのか？

→ (回答) 買い物外出、旅行、外泊など、入居個々で希望がある。帰省先が無い利用者もいる。ニーズに合わせた支援を行っている

委員) 202号室利用方法について教えて欲しい。

→ (回答) ワークショップかぶらぎの利用者を対象としている。一人暮らし体験を提供することで、将来の自立生活に向けての準備の機会となっている。

委員) 避難訓練について、どのようにおこなっているか。

→ (回答) 年2回おこなっている。広域避難場所(近隣小学校)への移動訓練や電話訓練など、実用的な訓練を行うことで、いざという時のために備えている。職員がいないときにも自分たちで避難できるように、おなじルートで避難する訓練をしている。

2. ジョーの家での生活について

サビ管) 別紙参照③

委員) 通院同行は行っているのか。

→ (回答) 基本的にはご自身で通院している。状況により症状の確認が必要な場合は同行を行っている。また臨時の通院等では同行する場合もある。

委員) 服薬管理はおこなっているのか。

→ (回答) 基本は自己管理である。入居者により、自己管理が難しい方に関しては、職員が管理しており、現在は2名の対応をしている

委員) 門限はあるか。

→ (回答) 門限は決めていない。しかし、帰宅時間が遅くなる時は電話連絡することと、できるだけ職員の勤務時間内に帰宅するように説明はしている。

委員) 入居者の郵便物、Wi-Fi 環境についてはどうしているか。

→ (回答) ポストが1階にあるため、世話人がそれぞれのポストを確認し、各入居者に手渡ししている。市からの書類等については、本人と話をして必要に応じて支援している。携帯は入居者の個人契約になっている。パソコンを使用する方がいないため、Wi-Fi 設備は準備していない。

利用者) ジョーの家での生活は8年くらい。平日はよもぎの園へ通所している。5時に起きて朝食を食べる。6時にバスに乗ってよもぎの園に行く。16時過ぎ帰宅する。17時に食事し、入浴し寝る。土日は映画鑑賞や買い物に行く。料理を自室にてすることもある。蕎麦、うどん、焼き肉、オムライス、お茶、コーヒーなどを部屋で作っている。通院は月1回、市内の病院へ行く。

委員) ジョーの家での生活で楽しみはなにか。

利用者) 誕生会、クリスマス、正月での料理が楽しみ。

委員) 映画、買い物をどこまで行くか。

利用者) 映画鑑賞は、八千代緑が丘。買い物は、志津方面。

家族) ジョーの家では、アパート型の個室という環境が、プライバシーを重視する息子に合っていた。仕事で遅い帰宅に対応できる食事提供など、個々の状況に合わせた柔軟な対応がされている。障害の診断がされる前までは、息子の行動を理解することに苦労し悩むことが多かったが、診断を受けたことで、息子、家族ともに障害を受け入れることができるようになり、家族関係が円滑になった。ジョーの家での生活を通して、息子が自立し、家族との時間をより楽しめるようになった。

委員) ジョーの家に入居して変化はあったか

家族) ショートステイを利用していたときは、自宅に近いので、利用中に家へ戻ってくることはあった。ジョーの家に入居となり、定期的に帰宅することはあるが、生活の場がジョーの家となっている。

委員) ジョーの家で生活することで、本人や家族の変化はどうか?

家族) 息子は、自宅に戻った際は、食事を楽しみしている。私自身も、息子と離れたことで、息子との旅行を楽しみにしている

3. 意見交換

委員) 食事提供はどうしているか？

→ (回答) キット食材の注文と食材注文を併用している。併用することで入居者の食事の幅が広がった。特にキット食材のメニューにないパン食を提供できる。

委員) 地域連携推進会議の開催にあたって、入居者、ご家族の心境はどうか。

家族) 息子がお世話になっているので参加したいと思った。

利用者) 参加の意思表示はしたが、自分が参加することになって驚いた。

委員) 地域連携推進会議でのホームを見学する理由をどうとらえるか。

→ (回答) 利用者にとっては、今いる施設が基準となっている。様々なホームを見学することで、自分に合ったホームを選択できる可能性が広がるのではないかと。それによって、生活の質の向上に繋がり、より良い生活を送るためのヒントを得るきっかけになるための手段ではないか。

委員) 見学を通じて、他の施設の良い点を取り入れ、自施設のサービスを改善するきっかけとなる。災害時など、他の施設と協力体制を築けるのではないか。

以上